



伊東市立

西小学校

閉校記念誌



西小学校閉校にあたり

伊東市長

小野 達也



明治29年開校の伊東尋常高等小学校を前身とし、昭和14年に東小学校、昭和48年に旭小学校が新設され、現在の西小学校となり、今年で127年を迎える長い歴史、伝統のある伊東市立西小学校が閉校するにあたり、関係各位にご挨拶申し上げます。

西小学校には県立東部特別支援学校伊東分校が併設されており、交流を深める中で、他人への思いやり、児童の多様性が培われてきました。まさに共生社会に適応する多くの児童が卒業しております。近年は「確かな学び 豊かな心 すこやかな体」を目標に児童、保護者、教職員、学校に関わる地域の方々とともに取り組んでまいりました。また、最後までやり遂げる児童を育成することに注力し、そのような環境で学ばれた多くの卒業生が各方面でご活躍されています。

多くの方々に支えられ、親しまれる小学校でありましたが、近年の少子化により市内の小学校と中学校の児童生徒数が減少したことで、学校の小規模化の進行や学校間の規模の格差などの課題が顕著となり、将来の学校における教育環境、学校運営に様々な影響を及ぼすことが懸念されておりました。

このようなことから、地域の皆様を始め、幅広い関係者からご意見等をいただき、令和元年8月に「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」を策定し、子どもたちのことを第一に考え、将来に渡ってより良い教育環境を提供するため、やむなく閉校し、東小学校・旭小学校との統合の運びとなったところです。

しかし、この機会は、新たな歴史の始まりであると捉え、西小学校の素晴らしい校風で学んだ児童たちは、新たな小学校に移られても、多くの仲間と楽しく学校生活を送られるものと確信するところです。伊東市といたしましても次代を担う児童のため、より望ましい教育環境となるよう全力で努めてまいります。

結びに、この度の学校統合に伴い、保護者の皆様を始め、地域、同窓生並びに西小学校にゆかりのある方々に、多大なご尽力を賜りましたことに重ねて敬意と感謝の意を表しまして、ご挨拶とさせていただきます。

地域の歴史と共に歩んだ 西小学校

伊東市教育委員会 教育長

高橋 雄幸



伊東尋常高等小学校をその起源とする西小学校。その歴史は古く、明治29年、市制施行前の伊東村までさかのぼり、今年で創立127年を迎えます。同校には昭和14年、分教場を経て伊東東尋常高等小学校（東小）として、昭和48年には旭小学校としてそれぞれ独立していったという歴史があり、時代に合わせ、その形を変えながら地域と共に歩んできた学校であります。この長い歴史を持つ西小学校が閉校いたしますのは非常に寂しい思いではありますが、源流を同じくする3校が時代の流れと共に1校に統合されるということは、明治以来の先人たちによって紡がれてきた教育理念が途切れることなく、未来を担う子どもたちにもしっかりと受け継がれていくものと思います。

また、西小学校には県立東部特別支援学校伊東分校が併設されており、両校の子どもたちが運動会や交流会によって積極的に交流をしている姿を見ておりますと、まさに今般、その重要性が広く認識されつつある「共生社会」を先んじて実践してきた学校であったと強く感じています。こうした西小学校の多様性を認め合う教育環境は、教育目標である「豊かな心」を育み、未来を担う人材を育成するのに最適なものであったと思います。来年度から通学する伊東小学校におきましても、西小学校で培った豊かな心と、共に生きる力を存分に発揮していただきたいと思います。

地域の皆様に愛され、共に歩み、育てて頂いた西小学校の歴史は幕を閉じますが、時代や環境と共に生きてきた同校の新たな船出に立ち会えましたことに寂しさと同時に喜びも感じております。そして、西小の伝統ある木下空太郎先生が作詞した校歌を受け継いだみなさんが、この先どのように羽ばたいていくのかとても楽しみにしています。

結びに、これまでの西小学校の教育活動に多大なるご尽力を賜りました関係者各位に心より感謝申し上げます、閉校にあたっての挨拶とさせていただきます。

受け継がれしもの

伊東市立西小学校 校長

小形 丈晴



伊東市立西小学校と改称される以前、伊東尋常高等小学校としてスタートを切った本校。当初、子どもの数は1024名でした。その後、人数は増え続け、最大3000名を超えることとなり、東小学校続いて旭小学校が分離独立していきました。そして令和4年度は251名でのスタートとなりました。

今、127年間の歴史に幕を閉じ、東小学校・旭小学校と再び一つになり、伊東小学校として、新たな歴史を刻もうとしています。

ところで、本校の自慢の一つに、類い稀なる「校歌」の存在があります。作詞者が木下奎太郎であることは言うまでもありません。かく言う私も、37年前、新採でこの西小学校に赴任し、子どもたちと共に歌ってきました。そのメロディーは頭から離れず、再び赴任した今回も、すぐに口ずさめた程でした。この度の統合に際し、校歌が引き継がれることになったのは、実に喜ばしいことでした。

もう一つの自慢に「挨拶」が挙げられます。児童会を中心に、様々な挨拶運動が繰り広げられ、近年では、西小学校のキャラクター「ニッシー」に引き続き「ペコッシー」なる新キャラも誕生しました。また、優しい言葉遣い、思いやりのある声かけである「ふわふわ言葉」を推奨する中で「ファッシー」という新キャラも誕生し、校内には温かく落ち着いた雰囲気が生まれていきました。

ここ数年はコロナ禍の影響で、教育活動にかなりの制限がかかり、学校行事の見直しや中止等をせざるを得ない状況でした。しかし、その中で、保護者や地域の方々のご理解やご協力もあり、無事乗り越えることができ、今に至っています。

健やかに成長してきた子どもたち。それを支え続けてきた周りの大人たち。127年間という歴史の中で培ってきた西小学校の伝統とよさを受け継ぎ、新たな伊東小学校においても、子どもたちが「意志強く、質実に、されど優しく」成長していくことを願っています。

西小学校ありがとう

伊東市立西小学校 PTA会長

鈴木 隆一郎



「西に山 東に海」で始まる木下奎太郎先生が作詞された西小の校歌を入学の時に聴いた私は「変わった校歌だな」と衝撃を受けたのを覚えています。私は西小の卒業生であり、私の父も子供たちも西小にお世話になりました。三代でお世話になった西小最後の年に、PTA会長という大任を務めさせていただいたことに責任を感じつつも、感謝しながら過ごすことが出来た1年間でした。

私がPTA役員になったのは2年前でした。コロナ禍で学校行事もPTA活動も中止・縮小を余儀なくされた中、閉校までの限られた時間の中で子供たちのために何が出来るのだろうか、どんな学校生活を送って閉校を迎えれば思い出に残るだろうかと他の役員と共に考えながら過ごす日々でした。そのような状況の中でも先生方・保護者の皆様・地域の皆様のご協力もあり、子供たちと一緒にいくつかの閉校行事も開催することが出来ました。その閉校行事を通じて西小の歴史・変遷とそれに伴う地域の移り変わりを再確認することが出来ました。また、西小127年の歴史のいつの時代を切り取っても、地域住民の皆様の中心には、いつも西小があったんだなと感慨深いものがありました。

皆様に愛された西小は閉校し、来年度より伊東小学校として新たな歴史を刻んでいくこととなります。幸いなことに西小の素晴らしい校歌はそのまま継承され、今後も多くの子供たちに歌い継がれていくことと思います。「意志強く 質実に されどやさしく」の校歌の歌詞を胸に、新校でも、またその後の社会生活でも子供たちが大いに活躍出来ることを願っています。またそのための環境作りこそPTA活動の重要な使命のひとつであると考えています。

結びに、これまでのPTA活動にご協力くださいましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。また新校におきましても、子供たちが健やかで安全な学校生活を過ごせますよう引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。閉校にあたってのご挨拶とさせていただきます。



教育目標

楽しい学校

意志強く質実
○確かな学び(知)

されどやさしく
○豊かな心(徳)

額に汗 腕に力
○すこやかな体(体)

校章



杉の木を3本鼎立(ていりつ)させたのを真上から見たように配し、伊東市のマークに囲まれた中心部の円に西と記名しました。杉の木の3本は、「みな仲良く手を取り合って杉の子のようにすくすく伸びるようにありたい」という意味が込められています。

学校概要

〒414-0017 静岡県伊東市幸町1-5 Tel.0557-37-2049 / Fax.0557-37-4373

校旗





西小学校校歌

作詞 太田 正雄

作曲 梁田 貞



閉校記念特設ウェブページ

西に山、東に海、
美しいかな、この岡、われらが里。
あれ あれ あれ あれ 朝日子登る。
あれ あれ あれ あれ 船出の叫び。
さればわれ等も親々の如く、
かめむかな、いざ、はらからよ、友よ。
かめて更に歩武を進めむ。
額に汗、
腕に力、
意志強く、質實に、されどやさしく、
いざ、はらからよ、同窓の友よ。
あな あな あな あな 幸ある御國。
あな あな あな あな 楽しきつどひ。

西小 の あゆみ

明治25年頃、当時伊東は、加茂郡伊東村とっていた。

学校は、伊東高等小学校、伊東尋常小学校、東浦尋常小学校、葛見尋常小学校、鎌田尋常小学校の5校があった。

ところが、明治29年になって、伊東村内（新井、玖須美、湯川、松原、岡、鎌田）には、1校の尋常高等小学校が設置されることになり、前記の学校が合併されて伊東尋常高等小学校となった。

校舎は、伊東高等小学校が現在の藤の広場のところに新築したてであったので、これを使用し、不足の校舎は、古い学校を使用して、伊東尋常高等小学校として発足した。



旧校舎前(明治37年)



正門(昭和10年)



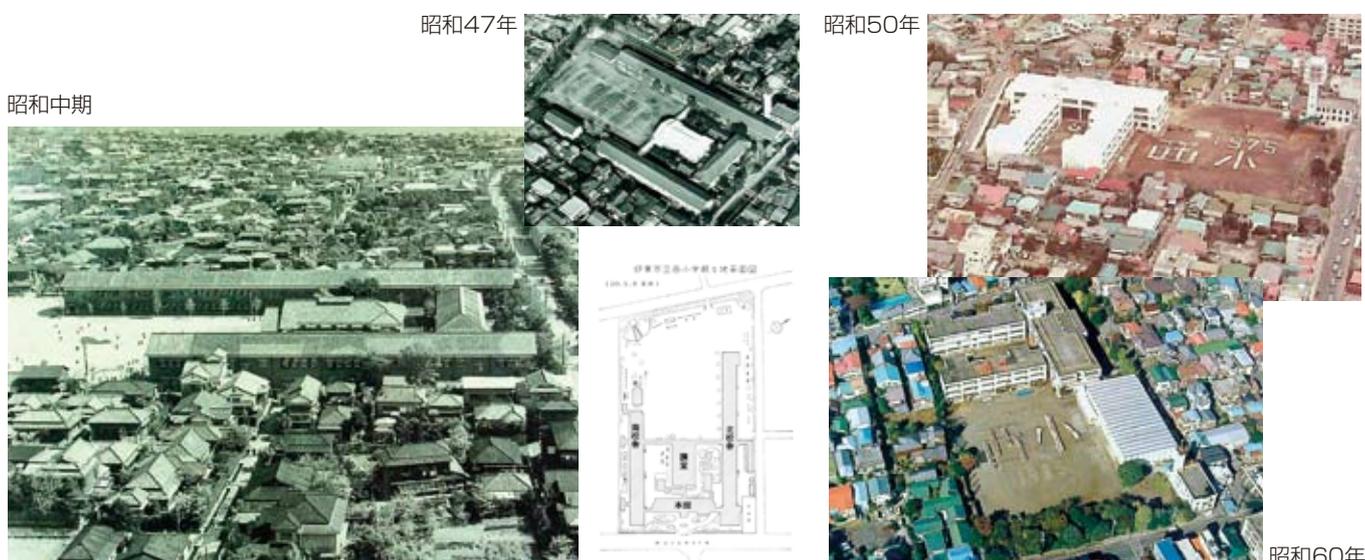
旧校舎(大正10年)



奉安殿(昭和14年)

明治29年（1896）3月7日	<p>村立伊東尋常小学校と高等小学校が合併し、賀茂郡伊東村立伊東尋常高等小学校となる。児童数 尋常科786人、高等科238人、合計1024人（校地は旧庁舎の位置、松川藤の広場）。この日を開校記念日と定める。</p>
7月	<p>郡制改革によって田方郡伊東村立伊東尋常高等小学校と改称する。</p>
明治31年（1898）11月	<p>秋季運動会で全村を一巡する。この頃は遠足のことを運動会といった。</p>
明治32年（1899）10月	<p>高等科生徒127名が冷川峠を越えて沼津へ1泊の修学旅行をした。今の伊豆箱根鉄道が大仁まで開通したのがこの年の7月である。</p>
明治37年（1904）2月	<p>日露戦争が始まる。校庭で召集兵の壮行式が行われ児童が広野小川上まで見送りをした。</p>
明治43年（1910）4月	<p>現在地に新校舎が落成した。大講堂に参加者多数。</p>
大正4年（1915）1月	<p>北里柴三郎博士寄贈の橋が完成し、「通学橋」と命名された。</p>
大正12年（1923）9月	<p>正午近く関東大震災が起こる。続いて2回にわたって津波がおそったので町は空前の被害を受け多くの死傷者が出た。本館と新築校舎の他全部の建物は屋根瓦や壁が落ち、石垣や校門も崩れた。講堂、校庭が町民の救護所にあてられ死傷者を収容した。余震が毎日続き、流言も騒がしく人心が動揺した。児童の死亡13名。10月半まで休校する。</p>
昭和3年（1928）10月	<p>校歌を制定する。作詞：太田正雄（木下空太郎）作曲：梁田貞の両先生。作曲者が来校し、発表会及び指導会を開く。</p>
昭和6年（1931）6月	<p>本校の分校（現在の東小学校）の開校式が開かれる。分校へわかる前の児童数は、3300人。</p>
昭和12年（1937）4月	<p>本町新井出身の天城山関が二宮金次郎銅像を寄贈し、その除幕式が行われる。</p>
昭和14年（1939）6月	<p>分校が独立して伊東尋常高等小学校となる。本校は尋常科だけとなり伊東西尋常小学校と称して、湯川、松原、鎌田及び岡、玖須美の一部が学区となった。</p>
昭和16年（1941）4月	<p>静岡県田方郡伊東町西国民学校と改称される。高等科が、現在の東小学校へわかれた。</p>
12月	<p>米英に宣戦布告。第二次世界大戦となる。</p>

昭和20年（1945）	7月	はじめて伊東に空襲があり、伊東駅や新井地区が銃撃爆撃をうける。
	8月	第二次世界大戦が終わる。
昭和22年（1947）		校章制定。図案の製作者は、太田 信（まこと）氏。杉の木を3本鼎立させたのを真上から見たように配し、伊東市のマークに囲まれた中心部の円に西と記名した。杉の木の3本は、みな仲良く手を取り合って杉の子のようにすくすく伸びるようにありたいという意味。
	4月	六三制が実施されて伊東町立西小学校と改称する。
	8月	伊東市制施行（伊東町および小室村が合併）により、静岡県伊東市立西小学校と改称。
	11月	学校給食が始まる。
昭和23年（1948）	5月	PTA創設。
昭和29年（1954）	2月	校庭の源泉を活用して温泉シャワー教室が校庭の北側に建つ（PTA 寄付、工費96万5800円）
	4月	入学式。新生児が500名を越える。小学校は児童ピークの時代に入る。
昭和32年（1957）	7月	「伊東子どもの歌」が作られ、歌唱、舞踏の練習会が開かれる。
昭和33年（1958）	4月	児童数2544名（西小になって最大児童数）
	9月	台風22号（狩野川台風）襲来、市内被害甚大、児童5名死亡。校庭は押し寄せた泥土のため1mあまり盛り上がり、校舎、施設の損傷が大きい。
昭和36年（1961）	4月	6年生484名が卒業して小学校児童のピークが去ったので「すし詰め教室」もゆるめられ、特殊学級(1)を設ける。特別教室として理科室、図工室を設置（36万円）。
昭和41年（1966）	3月	開校70周年記念式を挙げ、記念事業を行う。
昭和48年（1973）	4月	旭小学校が分離独立して開校（5月30日に新校舎へ移る）。
	7月	新校舎の起工式 建築延面積7863㎡、工費約6億円。
	8月	新校舎の玄関ホールを飾る「よるこび」の像が、市長の手に寄贈された。制作者：下山昇氏、寄贈者：佐藤清一（天城診療所）氏。
昭和49年（1974）	8月	待望の新校舎が完成した。夏休み中ではあるが、児童と父母の手により引っ越し作業が行われる。
昭和50年（1975）	4月	かねてから伊東小学校校歌（西小学校校歌）を愛する人たちが計画していた「校歌碑」が完成し、除幕式が行われた。制作 河合正一氏 工費約400万円。
	11月	8代目の校長、古見一夫先生（号は豆人）の句碑が学校林に建立される。
昭和51年（1976）	3月	開校80周年記念式。記念事業として校地の東側、修善寺街道沿いに「学校の森」を作る。屋内運動場完成。
昭和57年（1982）	1月	中庭に相撲場が海野建設の協力によってできた。
昭和59年（1984）	9月	言語障害児の教育施設の要望に応じて、本校に「ことばの教室」が設置され、開級式を行う。工費690万円、通級児童20名。
昭和61年（1986）	3月	開校90周年記念誌発行。

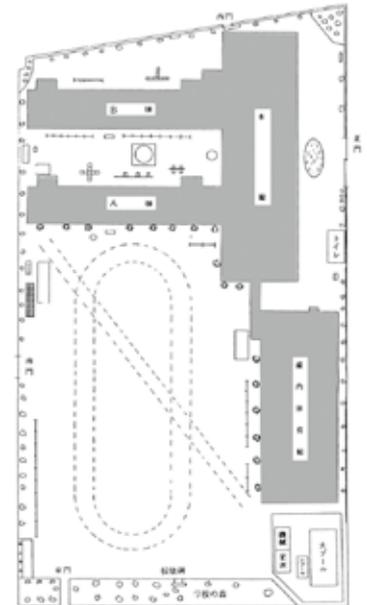




創立100周年(平成7年)

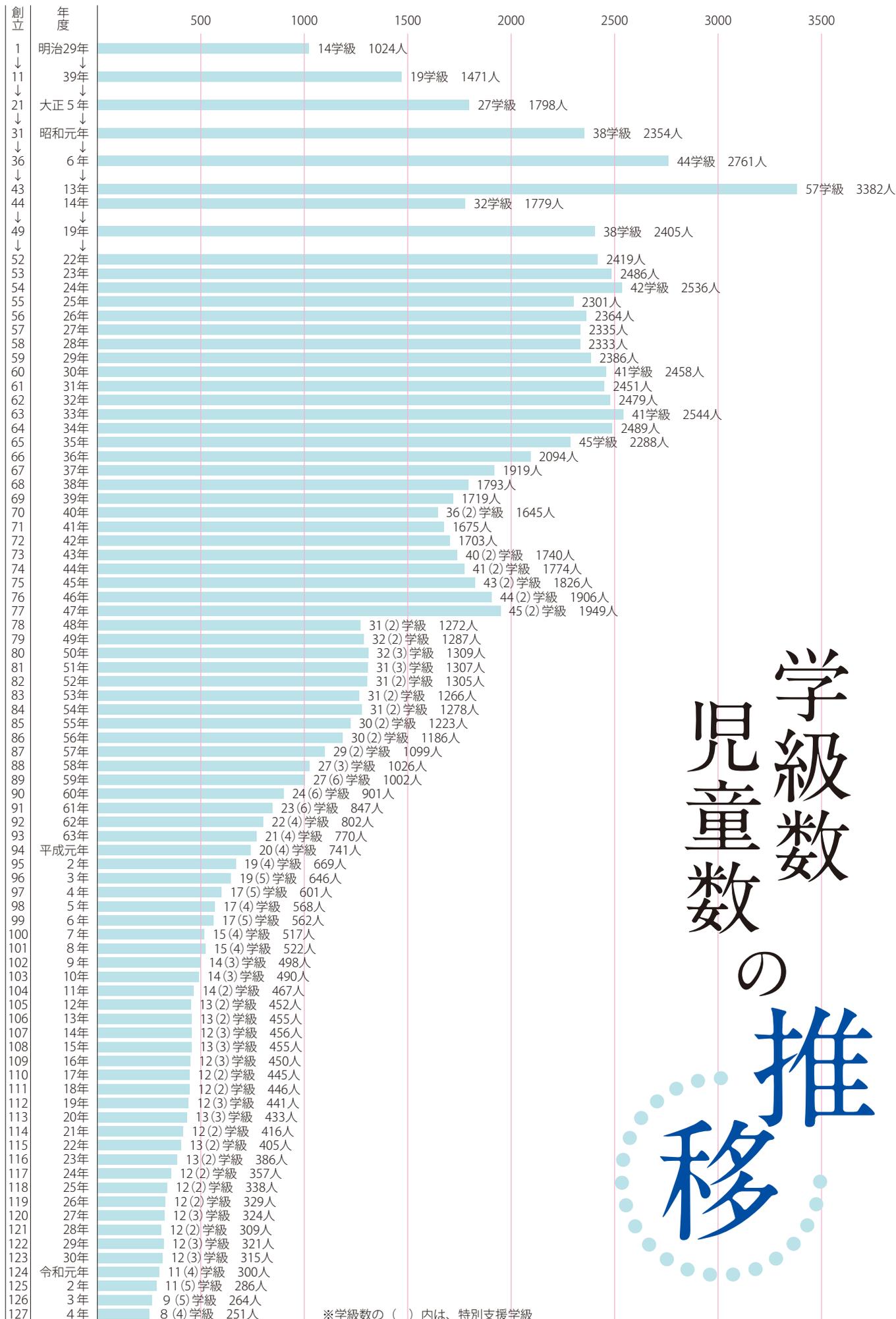


学校林石碑



校地・校舎平面図

平成元年 (1989) 7月	伊東市沖で海底火山が噴火。54名、30世帯体育館へ避難。校長他4名宿泊、学校待機。 7月14日から7月19日まで「臨時休校」。この間体育館への避難者延94名。職員も宿日直を複数体制で待機する。
平成6年 (1994) 3月	校地内に新プール完成。(9660万円、FRP製、防災倉庫も含む。杉山工務店)
平成7年 (1995) 7月	中庭の噴水を花園にする。
11月	創立100周年記念式典。その他、100周年記念共同制作(図工)。各学年、仲良しで取り組んだ作品は玄関ホール壁面を中心に展示する。
平成11年 (1999) 4月	静岡県立東部養護学校伊東分校開校(5教室貸与)。
平成12年 (2000) 11月	市指定研究・県研究推進校「総合的な学習の時間」の研究発表会。
平成16年 (2004) 4月	国立教育政策研究所研究指定校「教育課程」の研究をすすめる。
平成17年 (2005) 11月	「学ぶ喜びをはぐくむ学校図書館」をテーマに、研究発表会を開催する。
平成18年 (2006) 11月	第37回博報賞(国語・日本語教育部門)を受賞する。
平成22年 (2010) 4月	通級指導教室「杉の子」開設。
平成26年 (2014) 4月	体育館改修工事(H27.2.26完成 3.2落成式)。
平成28年 (2016) 3月	開校120周年記念品作成(クリアファイル・定規)。
4月	通級教室杉の子「星組」「月組」の2学級に。
平成31年 (2019) 3月	電子黒板が各教室に整備される。
(令和元年) 4月	通級教室杉の子「宙(そら)組」増級で3学級に。
令和2年 (2020) 3月	新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、臨時休業～3/18まで様々な出張(会合)が中止となる。
4月～5月	始業式を実施するも、伊東市より翌日から臨時休業が決定。5/31まで臨時休業となる。
6月	授業再開。
令和3年 (2021) 3月	GIGAスクール構想により1人1台タブレット端末が整備される。
4月	ことばの教室増級。大池小をサテライト校として開級。
11月	令和2・3年度伊東市教育委員会指定研究「学び続ける子どもの育成～資質・能力の伸長を自覚する授業を通して～」の発表会を実施。
令和4年 (2022) 4月	ことばの教室減級。新規設置校として大池小に開級したため。
令和5年 (2023) 3月7日	創立127周年を迎える。
3月18日	閉校式を開催。
3月31日	閉校。



学級数の推移 児童数の推移

※学級数の()内は、特別支援学級

思いの 出の 学び舎



2階渡り廊下



玄関



理科室



音楽室



教室



図書室前廊下



図書室





体育館



西門



中庭



二宮金次郎像



学校林



校歌歌碑



校庭



児童の笑顔と 眼差し

楽しもう

絆を深めて

全力西子



明治～
大正



一斉体操(明治36年)



旧校舎前(明治37年)



旧校舎(大正10年)



水泳部設立開場式(大正3年)



音楽会(大正5年)



運動部の合同体操(大正14年)



水泳(大正6年)



水泳部の遠泳(大正14年)



忠魂碑除幕(大正中期)

尋常科卒業生(大正5年)



昭和 元年～40年頃



授業風景(昭和中期)



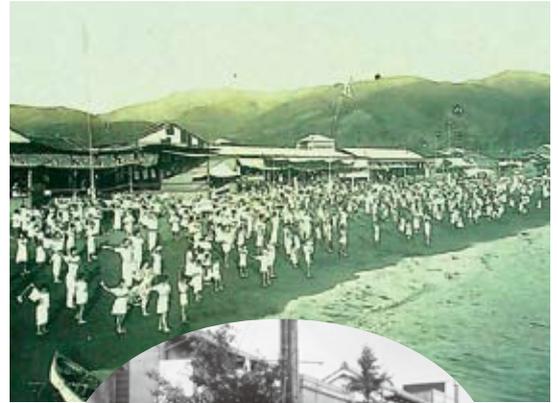
朝学(昭和10年)



子供銀行(昭和25年)



秋季陸上大運動会(昭和7年)



ラジオ体操(昭和11年)



町内でのラジオ体操もさかん(戦前)



遠泳隊の上陸(昭和7年)



給食調理(昭和28年)



水泳部(昭和11年)



水泳伊東華やかなりし頃(昭和初期)



水泳伊東華やかなりし頃(昭和14年)



高等科女子100m競争(昭和7年)



6年女子ダンス・ブドウ園(昭和7年)

公民体操(昭和7年)



職員リレー(昭和7年)



校庭の様子(昭和中期)



音楽発表会(昭和中期)



校内清掃(昭和中期)



写生授業(昭和中期)

給食(昭和30年)



身体測定(昭和中期)



アヒル飼育(昭和中期)





花壇整備(昭和30年代)



授業風景(昭和中期)



通学風景(昭和30年代)



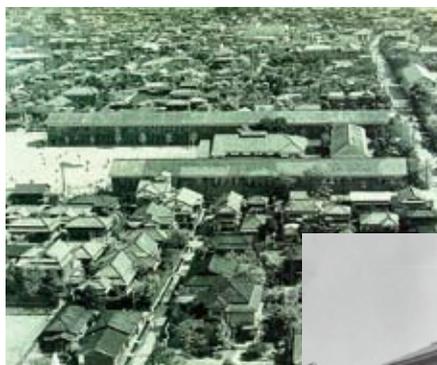
休み時間(昭和30年代)



足洗い場(昭和28年)



運動会(昭和中期)



空撮(昭和中期)

給食調理
(昭和30年代)



給食運搬
(昭和28年)

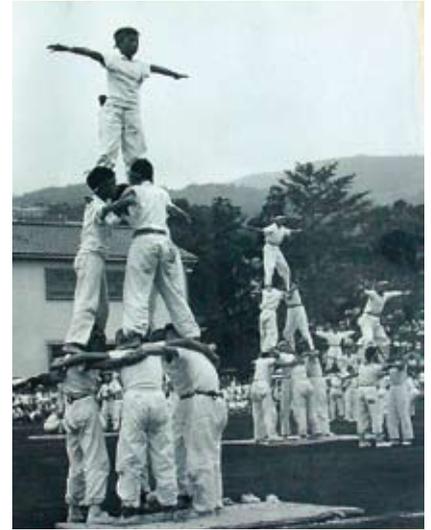


校舎改修(昭和34年)





創立70周年記念大運動会(昭和40年)



組体操(昭和中期)



学級対抗リレー
(昭和30年代)



昭和39年度卒業記念「助木」(昭和40年)



運動会応援風景(昭和30年代)



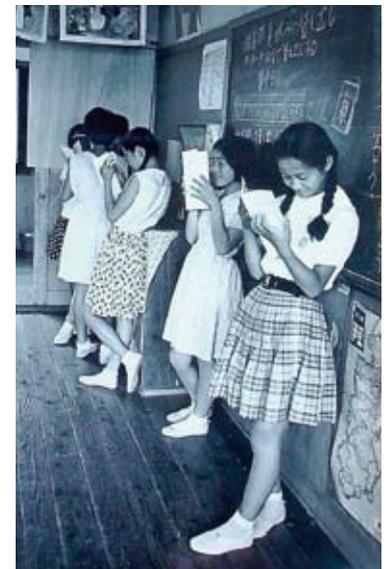
授業参観
(昭和30年代)



予防注射接種風景
(昭和30年代)



小音楽会(昭和39年)



通信簿配付(昭和30年代)



作品展(昭和40年)



狩野川台風の土砂(昭和33年)

昭和 40年頃～63年



新一年生(昭和40年代)



給食(昭和40年代)



登校風景(昭和40年代)



運動会(昭和40年代)



運動会騎馬戦(昭和40年代)



珍しい雪に大はしゃぎ(昭和42年)



運動会(昭和40年代)



運動会応援風景(昭和40年代)



運動会(昭和40年代)

運動会綱引き(昭和40年代)



テストの日(昭和40年代)



運動会(昭和後期)



かえるの逆立ち(昭和後期)



玄関前ソテツ(昭和51年)



授業風景(昭和48年)



芋掘り(昭和48年)



体育授業風景(昭和後期)



学芸会(昭和後期)



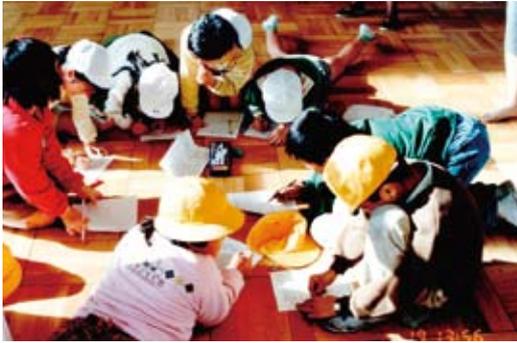
プール授業(昭和後期)

音楽研究発表会(昭和59年)



運動会(昭和63年)

平成 元年～31年



課外授業(平成初期)



給食(平成8年)



書き初め(平成初期)



体育授業(平成8年)



音楽授業(平成6年)



児童大集会(平成初期)



交通安全教室(平成8年)



防災訓練(平成初期)



組体操(平成初期)



体験学習 干物作り
(平成7年)



運動会(平成中期)



音楽発表会(平成11年)



節分(平成中期)

新1年生集団下校(平成19年)



児童版画(平成中期)





プール授業(平成20年代後半)



プール清掃(平成20年代後半)



運動会(平成20年代後半)



課外授業(平成28年)



給食(平成29年)



入学式(平成後期)



児童大集会(平成後期)

令和 元年～4年



6年生を送る会(令和2年)



空太郎祭(令和元年)



音楽発表会(令和元年)



海遊び(令和元年)



PTA通学合宿(令和元年)



JCサッカー
(令和元年)



自然教室(令和2年)



児童大会(令和2年)



プログラミング(令和2年)

修学旅行(令和2年)



マスクの入学式(令和2年)



分散登校(令和2年)



卒業式(令和4年)



修学旅行(令和3年)



校内図工展(令和3年)



1年生を迎える会(令和3年)



児童大集会(令和3年)



入学式(令和4年)



修学旅行(令和4年)



自然教室(令和4年)



プール開き(令和4年)

3校交流(令和4年)



ボッチャ杉村選手(令和4年)

伊東分校と最後の合同運動会(令和4年)



歴代校長

代	氏名
第1代	伊東 満蔵
第2代	野秋 直太郎
第3代	野方 正作
第4代	長崎 平一郎
第5代	勝呂 広吉
第6代	関 正義
第7代	稲村 文三
第8代	古見 一夫
第9代	佐野 九二松
第10代	丸尾 熊蔵

第11代	渡辺 二郎
第12代	日吉 加以智
第13代	堀江 弥栄
第14代	飯田 浩
第15代	飯島 謙吾
第16代	石井 佐太郎
第17代	土屋 康雄
第18代	横川 禹門
第19代	海老名 幸一郎
第20代	島田 千秋
第21代	宮下 俊一郎
第22代	深川 智章
第23代	土屋 松義
第24代	渡邊 武男

第25代	仁田 彌太郎
第26代	山仲 義之
第27代	村上 源一
第28代	渡邊 英男
第29代	露木 幸一郎
第30代	松本 孝
第31代	山内 馨
第32代	坂田 邦雄
第33代	中田 義弘
第34代	梅田 泰史
第35代	稲葉 英彰
第36代	山田 恵三
第37代	黒澤 章
第38代	小形 丈晴

歴代PTA会長

代	氏名
第1代	佐藤 清一
第2代	太田 謙吉
第3代	山田 正美
第4代	村上 延雄
第5代	浜野 英一
第6代	大川 喜三士
第7代	鈴木 武雄
第8代	三枝 学
第9代	武智 博
第10代	栗原 一寧
第11代	小林 政一
第12代	井上 泉
第13代	門松 修平

第14代	膏木 広和
第15代	西 達雄
第16代	後藤 淳平
第17代	斉藤 喜之
第18代	海野 英夫
第19代	鈴木 捷夫
第20代	石井 基雄
第21代	井原 学
第22代	斉藤 隆一
第23代	鈴木 隆夫
第24代	三枝 寛司
第25代	菊間 秀典
第26代	藤本 良裕
第27代	大城 一朗
第28代	川井 清美
第29代	中嶋 守
第30代	小林 和哉
第31代	市川 正美

第32代	稲葉 祐人
第33代	三浦 秀夫
第34代	鈴木 寛人
第35代	鈴木 仁
第36代	齋藤 巨明
第37代	齋藤 一彦
第38代	武智 一雄
第39代	石田 和哉
第40代	飯塚 啓太
第41代	大川 勝弘
第42代	山田 勇貴
第43代	鈴木 隆一郎





1,000人校歌プロジェクト

閉校に伴い、閉校記念動画に使用するための校歌斉唱の撮影が行われました。当日は、たくさんの在校生や卒業生、地域住民が参加し、閉校する母校へそれぞれの思いを込めて校歌を歌いました。

編集後記

伊東市立西小学校は、令和4年度末（2023年3月）をもって、127年間にわたる長い歴史に幕を下ろすことになりました。様々な時代を通して、幾多の子どもたちが、地域の皆様に守られ、育まれながら、笑顔と笑い声あふれる学び舎を、巣立っていきました。

今年は、西小最後となる行事のひとつひとつが、とても愛おしく感じました。また、時代が移り変わっていく寂しさを感じました。一方で、3校統合に向けた交流活動や通学体験などを通して、子どもたちが、新設「伊東小学校」への希望や期待を胸に4月を迎えてほしいと願う1年でもありました。

このたび、西小学校の思い出を、折に触れて感じられるようにと、伊東市からご支援をいただき、閉校記念誌を発行することになりました。関係する方々のご協力のおかげで、なんとか記念誌としてまとめることができましたこと、心より感謝申し上げます。

編集作業には万全を期したつもりではありますが、過去の画像の中には、見にくいものもあり、完ぺきとは申し上げられません。記念誌をご覧になった方には、ご理解とご寛容をいただきますようお願いいたします。

最後に、西小学校で過ごした日々が、子どもたちの心のよりどころとなり、新しい時代に力強く歩みを進めていく礎となることを祈りつつ、編集後記とさせていただきます。

伊東市立西小学校閉校プロジェクト委員会一同



閉校記念特設ウェブページ

